

令和6年度 生涯学習推進施設運営委員会議事録(議事骨子)

日 時 : 令和6年11月19日(火) 13:30-15:30

場 所 : サン・レイク 第5研修室

区 分	内 容
出席者	<p>《事前配付資料》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運営委員会 次第 2 令和6年度島根県生涯学習推進施設運営委員会名簿 3 資料 <p>【資料1】令和6年度 研修実績一覧 【資料2】「しまね学習支援プログラム」の取組概要 【資料3-1 3-2】「親学プログラム」の活用・普及状況 【資料4】「地域魅力化プログラム」の活用・普及状況 【資料5】市町村等支援 支援状況一覧 【資料6】情報紙「しまねの社会教育だより」について 【資料7-1 7-2】学習情報提供・教材貸出・放送大学について 【資料8】令和7年度事業計画(案)について (同封物)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 令和6年度業務概要 <input type="checkbox"/> 令和6年度事業計画 <input type="checkbox"/> 島根県立生涯学習推進施設条例施行規則 <input type="checkbox"/> 生涯学習推進施設運営委員会規則 <input type="checkbox"/> 『親学プログラム』『地域魅力化プログラム』リーフレット <input type="checkbox"/> 「しまねの社会教育だより38, 39号」 <p>《当日配付資料》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 席次表 2 令和6年度公民館等実態調査集計結果報告書 <p>(委員)</p> <p>大地本由佳 委員 大野 公寛 委員 大橋 覚 委員 岡本 紀子 委員 水津 旬司 委員 花田 健司 委員 山中 慎嗣 委員(委員長) 山根久美子 委員</p> <p>(事務局)</p> <p>三島 伸仁 東部センター所長 青山 征司 西部センター所長 福島美奈子 総務課長 藤井 伸治 社会教育主事 小倉希一郎 社会教育主事 寺本 典則 社会教育主事 青木 悠介 社会教育主事 井上 佳子 学習相談員 家田ゆかり 学習相談員</p> <p>※欠席 田中 佳江 委員 原 敦代 委員</p>

<p>【報 告 事 項】</p>	<p>(1) 令和6年度事業実施状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会教育研修センターの機能・役割及び業務について ②人材養成研修「主催事業」について ③しまね学習支援プログラムの取組状況について ④令和6年度公民館等実態調査について ⑤市町村支援の状況について ⑥情報紙「しまねの社会教育だより」について ⑦学習相談・教材貸出・視聴覚センター・放送大学について
<p>【質疑・応答】</p>	<p>大橋委員 多様な属性から参加しているという報告が興味深い。今まで社会教育関係者中心という発想でやってきたが、社会教育の必要性を考えたとき多様な人材が入り込んできた。その原因、要因を分析しているか。</p> <p>三島東部所長 社会教育士認証制度ができ、社会教育が行政職だけのものではなくなってきた。社会教育的な考えを持つ分野が広がったことが1つの要因と考える。また、社会教育士でなくても時代の要請として、社会教育的思考や考え方が必要となり、興味を引いたのではないかと。また、高校時代から主体的、対話的で深い学びで育っている世代が大学生になってきた。研修に顔を出してくれたり、隠岐では、島留学とか短期で働きに来ておられるような方も一緒になって研修を受けてくださったりする。社会教育的な考え方が、時代に合ってきたのではないかと。分析まではできていないが、そのようなことを感じる。</p> <p>青山西部所長 西部は高校生が魅力化で、地域の探究活動で出ている。高校生等の若者を取り込む、若者と一緒に協働していく流れがある。経済的、定住対策、雇用問題等もあるので、そのような面でいろいろな形で集まっていると感じている。今年度、益田でフォーラムがあった。大学生を中心とした社会教育、地域の人たちの取り組み実践発表があった。そういうことから、いろいろな属性から社会教育に興味を持っていただいている。</p> <p>花田委員 今の質問に関連する。資料1で「参加者数」が出ているが、「参加期待数」があると思う。参加期待数に対する参加者数について、どう分析や評価をしているのか。</p> <p>三島東部所長 いろいろな要因があるかもしれないが参加者数に関しては正直、期待より少ない。この地域はもっと来て欲しいというものもある。満足度は非常に高</p>

	<p>いが、人数的には努力が必要。公民館等実践研修は東部7名、西部3名だが、各10人を予定していた。社会教育委員研修については、東部の参加が見込みよりかなり少なかった。</p>
花田委員	<p>今日提示された公民館等の調査について、分析していること教えてほしい。</p>
青山西部所長	<p>14ページ(1)後半、コロナ禍で開催中止、見直し、または改善を行った事業とその理由を記載している。運動会などスポーツに関するもの、宿泊を伴う事業が中止の傾向が強い。中止理由は、少子高齢化により子供の数が減って参加者がいない、高齢化で今まで一緒にやっていた協力者がいなくなったなど。地域の核になる人たちが、しんどくなっていないなくなった。</p> <p>継続して頑張ろうとしているところは規模縮小、事業統合してやっている。また内容を工夫、見せ方等々を変え、事業継続をしているものが多い。止めていくところもある反面、事業による繋がりづくり、地域の未来等を考え、頑張っていきたいという回答も認めている。各館の地域課題がありながらも、今後の地域を何とかしたい、しなくちゃいけないという思いを持った方たちも一定数いらっしゃる。</p> <p>その他、それぞれの市町村研修で、職員等のスキルと資質アップするようなものもたくさん挙げられている。地域づくりについての研修もたくさん行われている。</p>
三島東部所長	<p>実態調査8ページに「把握している地域課題」という項目がある。一番トップは「リーダー育成」。社会教育委員研修や公民館の実践研修で、人づくりに触れていきたい。「防災意識」も高い。公民館は防災の拠点ということが、最近求められている。(案段階だが)来年度研修の公民館等職員専門研修で地域防災をテーマに、と考えている。続けて5ページ。「職員が参加した研修」でトップは「人権教育」。人権同和教育課とタイアップして「人権教育」というテーマで打ちたい。人権同和教育課からのアナウンスで出てきた人たちに、社会教育研修センターでは、他にもこういう研修があるよっていうことをアピールできないかと考えた。研修内容を来年度から少し変えるにあたり、この調査を参考にしている。公民館の意識がどういうところにあるか見て、反映させたい。</p>
花田委員	<p>7ページの地域課題を把握しているが97%。その内容で「リーダー育成」が一番高いが、12ページの「次世代の人材育成を主なねらいとした事業の数」を0回とした館が48%。課題であり、着眼すべき点だ。</p>
大地本委員	<p>「親学プログラム」について。実施についてPTA行事、小学校就学前健診の回数が一番多い。そうした取り組みを通して、学校の子供たちや、その後の親同士の繋がりが、その後、どのように変化したかリサーチや、追</p>

	<p>跡調査、成果の情報はあるか。</p>
藤井社会教育主事	<p>複数校から中学校に進学する、あるいは小さい保育所から小学校に進学する場合、保護者の顔がよくわからないときがある。入学前に、こういう方がおられることがわかり、安心したと聞いている。気づきを促すということもある。子育てに不安を感じていることを、入学前段階、入学後、私だけじゃなかった状況を共有できる。</p>
大地本委員	<p>「親学プログラム」を踏まえて、取り組みを広げていくことができたらと、いい。よりPTA活動が活発になったり、繋がったりするとより良い。次に青少年の地域参画や、地域と学校の連携協働について、意外に公民館がかかわる比率が高くない。これから公民館やまちづくりセンターの事業にリーダー育成や、中高生が参画する仕掛けを、学校の総合活動や探究活動とどう連携してやるか。そういう専門性の学びがあるといい。</p>
山中委員長	<p>単に参加者数にこだわらず、そのあと、どういう影響、発展があったのか事業評価、確認する必要があるという点が発言に共通している。多様な人が来るようになったという反面、関係者が少ないという声もあった。より多様な人を呼び込む工夫や関係者を引っ張り込む仕掛けは、やはり振り返りが必要。「親学プログラム」も同様。実施後、親同士がすごく繋がったとか、すごく安心感を与えたなど、実際の声を拾っていくことも必要。</p>
大地本委員	<p>PTAで活動を考えている時に、相談を研修センターにダイレクトにできるのか。関係者じゃないとできないのか。そうだとしたら最寄りの公民館とかにするってということか。</p>
青山西部所長	<p>学習相談で受けることは可能。市P、県Pとかであれば、市町村支援の方でも入る。単Pだと難しい。相談なら動けるし、対象者によって仕分けしない。学習相談があったら、こういうところに相談したらいい、ということと言える。</p>
三島東部所長	<p>最後までかかわるかわからないが、学校が継続的に活動するならば公民館、市が関わっていかないといけないので、その活動情報はしかるべきところにおろし、うまく回りだしたら、我々は引く、ということになる。</p>
大地本委員	<p>保護者が、子供たちの学びの機会を作っていく視点を持っておられるようになってきている。そういう時、困った時に、どこが相談窓口なのか。一般の人たちの相談窓口が必要と思っている。センターの活用、相談や市町村支援は誰に対して行うのか、整理やPRが必要。</p>
山中委員長	<p>学習相談と市町村支援で、電話がかかってきた時、市町村支援と学習相談</p>

<p>青山西部所長</p> <p>水津委員</p> <p>山中委員長</p>	<p>の仕分けをするのか。どうやって整理するのか。</p> <p>話を聞いて、こちらで市町村支援か学習相談か基本的に分ける。</p> <p>一般の方で、相談組織を理解している方は少ないと思う。学校、社会教育関係者はわかる。普通の人にそういう時にどこに相談したらいいかわかるよう、考え直してみる必要がある。今聞いていて、このルートを保護者やPTAが理解して、初めて次に繋がるのではないかと感じた。</p> <p>例えば、「人権に関する相談」。県警本部、青少年家庭課、人権同和教育課、いろいろなところに相談窓口やホットラインがる。ありすぎて、どこへ相談しようかとなる。社会教育に関する情報はそういう状況にない。センターにあっても、知られていないのが水津委員の発言と思う。情報提供の工夫が必要と思う。</p>
<p>【説明事項】</p>	<p>(1) 令和7年度の事業計画(案)</p>
<p>【意見交換】</p> <p>岡本委員</p> <p>山根委員</p>	<p>テーマ：「今後の社会教育研修センターの役割と研修内容」</p> <p>公民館主事として、ファシリテータや親学プログラムなど様々な講座を受けたり、補佐をしたりして研修センターのプログラムの良さを感じた。その中でも「親学プログラム」は作成当初の我々の世代と、若い世代でイメージのとらえの違いを感じる。参加者が仲良くなることで、不安が解消される姿が見て取れる。その後「公民館に相談に来てね」と終わるが、実際に来られたことはない。参加者が仲良くなることで、子どもの仲の良さへの影響があると感じる。プログラムを進化させることが大事だと考える。浜田市は、エリアごとにエピソードが積み上げられているので調査した方がよい。</p> <p>公民館主事を経験しているので、受講者数が少ないことが課題と言われる気持ちがわかる。一方、参加者側の気持ちもよくわかり、チラシが来ると、「また来た」と感じで構えてしまう。参加したらいいことはわかるし、自分にできることが増えて、行ってよかったって後々思う。</p> <p>行くのか、行かないのか、主事仲間でどうする？みたいな感じになる。実際、参加すると、皆さんの顔を見ながら、ああでもないこうでもないって言って、教えてもらうのがすごくいい。話し合いがまたよくて、それこそ、</p>

	<p>この後飲み会、みたいになっていく。主事仲間の繋がりもすごく深くなる。研修会に参加することで得られたことが多いということが言いたい。行きたくないと思っている人に、どうやって参加しやすくするか、どうやったら研修に行きたいと思わせるのか。前向きにさせるにはどうしたらいいのか。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>山根委員にとって、「研修の中身がいいから来たらいいのか、それとも来た人たちで仲間になれるから来たらいいのか」どちらか。顔見知りの関係となれる繋がりか、学ぶ内容か。</p>
<p>山根委員</p>	<p>学ぶ内容。内容がよかった時は、これがどのように自分の役に立つのか、自分に何ができるのかな、という気持ちになる。「親学プログラム」にしても、「地域魅力化プログラム」にしても自信に繋がる。受講することで、できる技が増えたのは事実。そういう輪が増えることで、いろいろな地域がもっと活性化するだろう。学びのバリエーションが増えて地域の方に喜んでもらえることもいい。いろいろな地域の公民館でお話聞く中で、受講すればいいのと思うことがある。チラシに何やっているのか、もっと参加したくなるような何かがあればいい。例えばQRコード読んだら、去年の様子が動画で見ることができるとか、受講者の感想やその後の思いを聞くことができるとか。そういう工夫があると、本当かなあと思いながら、ちょっと行ってみようかと。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>学習者が、どこに興味を持ったのかはわからない。学習内容やテーマに引かれた方もいるかもしれないし、学びの手法が深い学びに繋がりそうということもあるかもしれない。或いは講師がよかったからということかもしれない。なぜ受講してみたい、学びの場に行ってみたいとなるのか、その辺をセンターで、受講者の方やあまり来られない方に探ってみることが大事ではないかという指摘。受講を促すヒントになるようなものを掴むということも大事ではないか。</p> <p>研修に付随する飲み会で、受講者同士名刺交換して、顔見知りになって、面白いことやっている、そんな情報を得るために行くところがあった。過去振り返ってみると学びの中身よりも、来た人たちと出会うことが大事で、情報を掴んで横の人と友達になる、そんなことが第一義的な目的で参加にした。講座で夜、飲み会が楽しみで、知り合いになって、無人島キャンプやるから一緒に、が実現したことがあった。そういうことが大事だと思う。高校の魅力化で地域と繋がるっていうときに、地域の人とどうやって繋がるか。先生も飲んで膝突き合わせて、自分の思いをわかってもらうことが大事だと、講義の中で聞いたことがある。社会教育のとても大事な部分でもあると思うが、非常にやりにくいご時世というところはある。そういった繋がる場を作るというのは、昼間だけではないと思う。</p>

水津委員	<p>今年の11月1日、大田で「社会教育委員研修」があった。一番良かったのはグループ討議だった。社会教育は、各市町村により土台が全然違う。いろいろな方と社会教育の話をしながら、もっと勉強の必要があるとか気づくなど、本当に有意義な中身だった。できることなら東西分けて研修をしてほしい。仕事を持っていたら、なかなか行きたくても行けない。だけど会に魅力があれば、有休を取ってでも行く。それから当日感じたのは、全体で話したときに、各市町村教育委員会の社会教育に対する情熱の違い。リーダー研修も必要かもしれない。もう少し数多くの社会教育委員が参加できるように知恵を絞ってほしい。隠岐を含めて、縦長の島根県は環境も違う。その中で社会教育の話をすることはものすごく大切なこと。社会教育委員研修は必要。県下全域の社会教育委員が、1年に1回集うことは大切。夜があってもいい。次年度計画については、両所長以下頑張っていたきたい。他地区委員の意見を聞いたり、お互い話したりする機会は大事。</p>
三島東部所長	<p>社会教育委員と公民館の研修について、県社連（島根県社会教育委員連絡協議会）や県公連（島根県公民館連絡協議会）の事務局が県社会教育課の中にある。そこともっと連携して、次年度、改善したい。</p>
水津委員	<p>あらゆる組織の作り方が県内において違う。1ついえることは、派遣社会教育主事がいるので、社会教育関係者と行政の中に入って潤滑油のようにやってくれる。派遣社会教育主事制度は本当にいい制度だ。</p>
大野委員	<p>参加者数が少ないのはなぜか、という分析は必要だ。研修会場との距離の問題なのか、もしそうであればもっと近い単位で分散して実施。東西部にこだわらず分散した方がいいかもしれない。そもそも職員が参加できる職場環境、職員体制にあるか。また、魅力的な内容になっているか。どんな学習内容や交流があれば聞きたいのかなども重要。「ハードルが高い」という話があれば、連続の研修ではない形や、ステップを踏んだほうがいいのかとか、分析はやはり必要。原因は一つではないので試行錯誤することになる。オンデマンドを入れるなど、いい形を探っていけるといい。このままいくと「参加者が少ないので公民館職員研修はなくてもいい」となりかねないか心配。多分そうじゃないはずだと思うが。</p>
大地本委員	<p>高校教育の方のコーディネーター研修に関するゼミを持っているが、そのやり方を県のコーディネーター研修にプラスしたらいいというのがある。インプット後、研修を踏まえた実践をオンラインで情報交換とか、課題を共有したりして、メンバー同士でいろいろ話をする。1回学んで終わりではなく、実践後の課題感や困り事を共有することでの学びがあると思う。2ヶ月に1回、オンラインで1時間位のコンパクトな時間で、接点を多くして、お互い学び合う気軽さを追加したらどうか。お互いの学び合いや、繋がりができるのではないかと。あと、山根委員も言われたが、見せ方的な</p>

	<p>ところ。情報発信は島根県、見せ方が弱いのかと思う。どんな人にお勧めなのか、受講するとういうことが学べるみたいな見せ方が学習にしているのではないか。</p>
三島東部所長	<p>募集チラシの形式がマンネリ化して、多分「また来たか」「またこのパターンか」というところはある。参加したら「何がいい」「繋がるメリットは何か」「学ぶメリットがある」そういうアピールをして、今年の研修は何か違うぞと感じてもらうことが必要。</p>
大地本委員	<p>内容や講師は違っても、毎年同じパターンを見ていると、同じに見えたり感じたりはする。</p>
花田委員	<p>浜田市旭町の小学校に勤務して感じたのは、地域と一緒にやる事業が多くていいということ。ところが、昨年、教育実習生が「私もこれと同じことをしました」と言った。実に20年間プログラムが変わっていない。これはどうかと思った。事業の意図が感じられない。担当者から「この8年ぐらいで職員全員変わっている」といわれ、また、コロナ禍で、研修に行けなかった。チラシが来ても右から左、どんなチラシであってもスルー、これはまずい。浜田市は来年からコミュニティスクールが全校で実施される。これはチャンスで、担当者と佐々木派遣社会教育主事（浜田市）に来ていただき、「何とかしよう」となり、公民館職員研修をここでやろうとなった。センターの市町村支援で、担当者と一緒にセンターに相談に行って、公民館職員研修実施をお願いした。事業の見直しはもちろん、事業の意図を考えてほしい。何のためにやるのかという意図が感じられる研修を組んでほしい。参加者を増やすのは、市町村担当者の思いじゃないかと思う。今年度、公民館職員研修が東西で10人ずつの定員、県内に公民館等は284。1館に平均3名職員がいたとして1000人弱。来年度定員24人ということなら全体の3%。3%でもいいが、もっとがっちりやっていい。その受講者が中心となり広めたり、経験の浅い方や認識の低い方のところに行ったりして研修を打つ。というようなことをやらないと、受講者のV字回復はならない。人が人を誘うと思う。「この研修いい、行ってみよう」という人がいかに増えるか。突破口は市町村支援ではないかと思う。</p>
三島東部所長	<p>今年度4回集合で実施した。例えば、「うちの全公民館から職員を出席させるから、同じ4回シリーズをうちでやってくれ」と担当者から依頼されれば可能な限り、我々は検討する。もっと、大きな夢を描いてほしい。あとは我々がどう応えるかという熱意。</p>
花田委員	<p>そういう関係性だと思う。</p>
大橋委員	<p>「人づくり」という言葉は使いやすい。「人づくり」と言えば何となく理解</p>

される。しかし、実際、使っている我々がどうやればいいのかというのは日々考えている。こういった研修計画が起案で回ってきて、「人づくり」という言葉が明記されてある。参加者は「人づくり」の前に、自分づくり、自分らしさをどういうふうに作っていくのかということから始まる。そして、それをどう還元していくのかステップアップしていくと思う。自分にとって魅力ある研修なのかどうかということでは、ネーミングの検討も必要。行ってみたいワークなどが感じ取れば、行政職員も張り切っていくのではないかという気がする。

山中委員長

ネーミング、インパクトあるチラシなど、そこは、センターに頑張ってもらわないといけない。例えば来年度、各管内市町村で出前講座をやる、県が主催するけれど、市町村の関係者と中身について十分協議をする。その過程で関係者の参加をしっかりと願います。その次は別のところで出前講座をする。公民館職員研修、専門研修を出前としてやっていいかもしれない。その方が一緒に作るみたいな意識が働いて、管内関係者も熱が入らないだろうか。出前で、サン・レイクまでの1時間の道のりが10分になるなら参加者増に繋がるかもしれない。

大野委員

特に基礎講座の受講者が多様化していることについて、引き続き実態をよく見ていった方がいいと思っている。島大の社会教育主事講習も多様化しているので同じ状況にあるのではないか。そういう方々への研修を、センターとして意識する必要性と、必要だった場合に、そういう多様な方々への研修内容や実施する意義、ビジョンを詰めておいていいと思った。意思決定を伴うような地域運営組織、学校運営協議会においてファシリテーションなどの場づくりは結構ニーズがあるのではないか。そういう地域運営組織とか学校運営協議会の場で熟議の質を改善させる、また、かかわる関係者の力量アップを支えるという点は一般行政向けの訴求ポイントで、効果を示しやすいと思う。研修内容について、ファシリテーションは充実していていい。一方で、研修の場に来ることのできない人を掘り起こす方法も内容面に加えても大事。子育て中や勤務の関係で難しいのかもしれない。加えて、外国の方とか障がいのある方とか、様々なマイノリティも含めた属性の方への学びの場をどう開いていくかということも考えなければいけない。今日、再三話が出ている、こちらから研修を持って行ってはどうかというアウトリーチの考えも反映させていっても面白い。それから、人権とか防災とかテーマ別の研修は確かに面白い。いわゆる要求課題ではなく必要課題の方を設定して研修するのはチャレンジだと思う。

山中委員長

本日、協議いただいた事項を事務局方で来年度事業に活かしていただきたい。